

ラボの世界

THE WORLD OF LABO

TOPIC

いよいよ出発！
国際交流参加者の
事前活動すすむ！

P4～6

- 01 10代とともに「日本に生まれラッキー。選択肢はたくさんある！」
- 04 3年ぶりの国際交流に出発！ - 事前活動レポート -
- 06 インターン紹介 -Anais Patten-
- 07 未来 Project 報告／全国引率者合同会議開催
- 08 東京言語研究所 春の講座レポート
- 09 Go Ahead! -主体的であるということ -
理事会および評議員会の報告



みんな生きてる 地球の上で



10代とともに

井上 桂

Katsura-Inoue

山口県下関市出身。父親の影響で子どもの頃から登山するなど、さまざまなアウトドアスポーツを経験。日立金属勤務時代は山岳部に所属。アドベンチャーレースにも出場経験あり。32歳で会社員をやめ、国際自然環境アウトドア専門学校に入学。在学中に、旅行会社やホテルとコラボしてツアー商品を開発。2007年に起業し、いまに至る。株式会社FEEL代表取締役、「下関市・深坂自然の森」所長。ほかに、「しものせき環境みらい館」「山口県油谷青少年自然の家」「宇部市アクティビレッジおの」の管理をする。おとな対象の企業研修や災害時のサバイバル術、救急救命法の指導もしている。



子ども時代の山登り。学生時代にさまざまなアウトドア活動をし、いっきにその世界が好きになった井上さん。安定した会社員という立場をはなれ、どのように道を切りひらいてこられたのでしょうか。ラボキャンプのリーダーたちへのアウトドア研修がきっかけでラボとも関わるようになった井上さんがこれまでに歩んでこられた人生をうかがいます。

日本に生まれてラッキー。
選択肢はたくさんある！

山登りから始まったアウトドア人生

私は山口県でアウトドアに関する仕事をしています。ラボキャンプの「かまし海の学校」でのお仕事は10年近く前からはじめました。

私は小学校4年生のとき、父親といっしょに長野県にある白馬岳(2,739m)に登りました。父が登山好きだったので、月に1回はいっしょに山登りに行っていたんです。高校生になると友だちと山登りをしました。その

後、「山岳部がある会社」というのを基準にして就職活動をし、大手の日立金属という会社に就職。そして……最初に行った冬山で遭難しました。鳥取県の大山でした。夏は縦走(尾根伝いに複数の山頂をつないで歩くこと)ができませんが、冬だとできるので行っただけです。大山は日本海が近いこともあって天候が急変するところなんです。遭難したとき、すぐ近くでさえ見えないくらいのホワイトアウト(雪と濃い霧で視界が真っ白になってしまうこと)でした。しかし急に人影が見えたのでビックリ。なんとその人も遭難者でした。避難小屋に逃げこんで助かりました。

知ってしまったアウトドア学校

会社員として順調に仕事を続けていたのですが、32歳のときに日本ではじめてアウトドア専門学校ができたということを知ってしまいました。どうしてもその学校に行きたくなりましたが、私にはすでに家族がありました。子どももいました。しかし、どうしても行きたくて、入学試験を受けることを決心。その学校に連絡し、入学するためにどうしたらいいかを聞きました。また受験後、そのとき勤めていた会社の仕事の引継ぎをしっかりとしたかったので、入学試験の可否を早めに教えてもらうよう交渉しました。

そしてぶじに入学することができました。

趣味が仕事になり、好きだから続けている

アウトドアの学校に通いながらいろいろな事業を立ち上げたり、旅行ツアーの商品を企画したりもしました。それが独立した後の仕事につながっています。

私の場合は好きなことが仕事になりました。よく、「毎日好きなことができていいですね」といわれますが、趣味が仕事になるといのはどういうことかわかりますか？ 趣味がなくなる、ということなんです。でもアウトドアの仕事が続いているのはやはり好きだからでしょうね。プライベートでもアウトドアに出かけるんですが、楽しみながらも「仕事にどうつながるか」って考えてるんです。

アウトドアの仕事ってどんなもの？

みなさんアウトドアの仕事ってどんなことをイメージしますか。いまの私の仕事は、まず下関市の「深坂自然の森」など、4つの公共施設を管理する会社の代表をしています。それからアウトドアスポーツのイベントや大会を主催しています。力を入れているのはマウンテンバイクの大会です。とくにクロスカンリーンリーンといって、ひとつのコースをぐるぐると速くまわるものと、ダウンヒルといってと

10代とともに



にかく下り坂をいかに速く走るかという競技です。

それからアウトドアスポーツと環境教育の指導もしています。救急法の講習もしています。大学生や社会人の研修もしています。

もともとアウトドアというと日本ではレジャーが先なんですけど、IT企業を中心に大手企業が社員研修としてアウトドア活動をやったりしています。

ラボキャンプの「かまし海」の学校では高校生・大学生のリーダーむけに10年近く研修を担当させていただきました。キャンプに参加した小学生が安全に楽しくキャンプに参加して帰ってもらうための講習です。いざというときに、そこにいるメンバーでなんとかしなければいけない。溺れかけた人をどう浜辺で対応してあげるのか。安全のための考え方やレスキュー方法などを指導しました。

ふだんやってる仕事は幼児さんからシニア年代層まで幅ひろいです。幼稚園では「火と向きあう時間をつくる」ということもやります。あとは、小学校の宿泊学習とか小・中学校の防災教育とか。雨が降ったとき、風が吹いたときに身のまわりにあるもので雨風をしのぐ方法などは震災などのときにも活用できます。過去に幼稚園のお受験をする双子のお子さんに「人間性を高める」というプログラムの依頼をいただいたことがあります。

野外料理を教えることもあります。子どもたちと登山もします。あるときは1,700メートルくらいの山にスポーツ選手の高校1年生たちを連れていきました。5日間ずっと山の中です。寝泊まりするのも道の脇の狭いスペース。5日分の食料やテントなど全部背負って歩きます。トイレの問題があります。土を掘ってトイレにするとけっこう自然界にインパクト（ダメージ）を与えるので折りたたみ式の便座だけのトイレを使います。出たものを包む袋を使います。それは自分で持ちかえります（閉じれば臭いは出ません）。こういうことをちゃんとやるというのがだいじ

です。インターハイとか高校総体とかオリンピックに出るような生徒たちですが、スポーツだけでは培えないものもあります。自分が得意としていないところでも力を出せる、ということが必要です。

ところでラボランドのハイロープ＆ローエレメントはよくできていますね。ああいうのもレジャー寄りのものと、なにかを学ぶつくりのものがあって、ラボランドのはほんとうに絶妙なところでクリアすべき課題が設定されていて学びが多いコース設定です。

世界は広い。学ぶことはたくさん

オーストラリアのハミルトン島での移動はすべて電動カートでできます。ガソリンは要りません。サーフィン、スノーケリング、いろいろなことが全部無料でできます。どのようにしてこうしたシステムができるのかを視察しにいったのです。

フィンランドは教育についての視察で行きました。教育の質が高いことで有名な国です。障がい者もいっしょのインクルーシブ教育についても学びました。義務教育でも留年制度があります。留年をしても恥ずかしくないという価値観のようです。10年前でしたがあたりまえにアクティブラーニングをしていました。3世代の人たちが公園で楽しめるように遊具を開発しているメーカーも視察しました。

ヒマラヤには定期的に仕事で行きます。フェアトレードにも関わっています。

柔軟な発想がだいじ

たとえばカヌーは川下りをするためのもので春から秋に使う、というイメージがあると思います。しかし長野県ではカヤッククロスという競技をしています。カヌーを雪の上でどう楽しめるか、どうやったら使えるのか、という発想をすれば違うものが生まれます。これからの仕事は既存のものにとらわれずに尖った意識と柔軟な感覚で発想していくことがだいじです。

私はどんなことをやってもお客さんの笑顔と達成感があったら最高です。これのおかげで仕事できています。ひとりではどれだけががんばっても1馬力。多くの仲間がいるからこそよい仕事できて、いろいろ発想して形にできる。どんな仕事でもチームでやるのがだいじです。感謝できることがだいじです。

< Q & A タイム >

Q) 自然体験はだいじか？

そのだいじさはいろいろなエビデンスでも出ています。アウトドアに関してはアメリカが先行しています。アメリカでは日常的に行なわれています。大学でも学生たちの人間形成をめざし、2か月間キャンプをするなんてこともあるんです。

Q) ゲームばかりしている子たちは？

ただ単にゲームを取りあげる、というのはネガティブな働きかけ。ゲームをしなくていい環境があればいい。ネパールではインターネット環境もありません。いまの日本の子たちでも自然体験する環境さえあれば楽しむことができます。

Q) 野外活動ではいけないことをどう教える？

野外活動ではダメということばは使いません。思考がストップしてしまう。危険だから止める場合でもです。自分でも考えられるように声かけをすることがたいせつですね。

Q) 環境保全はどのように考える？

キャンプ活動でも環境への配慮がだいじです。いままでは高山植物は保全というと「立入禁止」でしたが、いまは活用しながら保全をしていく、共存型になってきています。

Q) 将来の夢がなくてどうしようかと…

焦らないことがだいじだと思います。自分の好きなことに気づいていないこともありま

10代とともに



す。公務員になりたいとか医者になりたいとかいうようなくくりでなく、もっとオリジナリティーを追求していくのがいいと思います。

Q) 小学生とかに自然の楽しさを伝えるには？

かんたんな方法は図書館で植物図鑑や昆虫図鑑などを借りてきて、それを持って1日でいくつ見つけられる(同定)か、というのがいいと思いますよ。生き物には名前が付いて

ますよね。ただ、世界中の生物で2割ぐらいしか名前がついてないといわれています。「新種」を探してみるとおもしろいですよ。生き物はふしぎがいっぱいです。

10代の若者に向けて

いまの時代、選択肢がとても多いと思います。職業の種類もすごく多いと思います。みなさんがずっと日本に住むかどうかもわから

ないですね。生き方そのものが自分でつくれる時代だと思います。日本に生まれたおかげでチャンスもたくさんあると思います。そこはぜひ意識して自分の人生をつかってほしいと思います。

(文責 編集部)

インタビューを終えて

[取材協力]

児玉いつ子パーティ、吉兼和恵パーティ、五十部奈緒美パーティ、(山口県)



児玉いつ子パーティ

●アウトドアの専門的でマニアックな職業があると知れて視野が広がった。ラボキャンプの野外活動もリーダーシップや協調性など学べるのが多いとわかった(村上達哉/高2) ●ラボランドくろひめのハイロープがほかの施設に比べ「教育的」であると知った。井上氏が安定した高給の職を辞してまで「自分のやりたいこと」を選択し、それを全力でやりぬいてビジネスに昇華した姿勢が心に響いた。自分は大3で、就職活動やインターンシップのことで大に悩んでいるが、多くの選択肢を提示してもらえた(伊藤悠一郎/大3) ●自分のしたいことを仕事でできるのはいいなと思いました。自分はまだ将来のことは具体的に決めていません。自分の趣味を少し

でも生かした仕事ができたらなと思っています。しかし井上さんといわれていたように趣味が仕事になってしまうので、やっぱりむずかしいなと感じました。また、自分は身体を動かして遊ぶことは好きだけれど、大学生になって外に出て遊ぶことはほとんどなくなりました。身体を動かすことを、かんたんなことから始めていけたらなと思います。たくさんの方から話を聞けてとてもいい経験になりました(山口耕平/大1)

吉兼和恵パーティ

●登山は「きつい」などのイメージがありましたが、その苦労を超越してこそ登山だ、という新しいイメージができました。ゲームに熱中する子が多いですが、環境を

与えることで人は自然にふれるようになると教えてもらいました(平野幌人/中3) ●ラボキャンプのリーダー活動をしていて、今年「びわこ湖の学校」が開催されるため参加しました。住んでいる地域でのさまざまなアウトドア活動を知ることができ、行ってみようと思いました。野外活動で子どもに「ダメ」という思考を止めてしまうとのこと。考えてもらったり、理由を伝えるたいせつさを感じました(石見南花/大3) ●野外でいろいろ経験するたいせつさを学びました。「夢をみつけることを焦らなくてもだいじょうぶ」という助言を胸に、好きなことや興味あることを追究していきたいです(吉兼和香奈/中3) ●自分が興味のある生物学に関しても、意見を聞けておもしろかった。これ

からは身近な自然に目をむけ、たまには外に出て遊んで過ごしていきたい(吉兼和諒/高3)

五十部奈緒美パーティ

●井上さんはとても自然が好きなんだなと思いました。自分が好きなことが仕事になってすごいと思いました(土井愛海/中3) ●井上さんがラボ活動をとてもよい活動などといっていたが、うれしくなった。たくさんの方を学び、おもしろかった(能美奈央/中3) ●井上さんが行った海外の話がおもしろく、大きなトカゲみたいな写真を見て、日本では見られない生き物だなと思いました。井上さんの愉快な話がきけてよかったです(福本陽菜/高1)

[取材日] 2022年4月

3年ぶりのラボ国際交流に出発！

2020年、2021年と実施できなかったラボ国際交流。今年の再開にむけ、2度目、3度目の挑戦となる全国各地の国際交流参加者が準備を進めています。2年間、3年間かけての準備のなかでとまどいもあったことでしょう。そしてそれぞれの努力があり、発見があったようです。

では、全国の参加者のうち10人からその準備活動（事前活動）のようすや気持ち、考えをリポートいただきます。

●楠 凌我（中3／福島県・野澤優子パーティィ）



事前活動を通してさまざまなことを心がけるようになり、声に出して感謝を伝えることや自分で料理すること、ほかの人を手伝ったりすることも増えました。

新型コロナの影響で国際交流に行けなかった2年間も合わせ、3年分の気持ちで国際交流に臨みたいと思います。



●羽田大輝（中3／山梨県・間瀬えりかパーティィ）



よくが事前活動で意識していることは「いろいろな視点からものごとを捉えること」です。

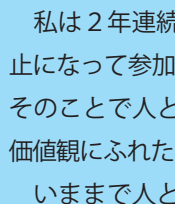
テーマ活動やCase studyで自分がなにをどのようにするかを考え、いっぽうでほかの人がなにをどう考えているかも考えるようにしています。こうすることで英単語や文法に加え、思考力も身につけてきていると感じています。

学校生活でも「積極的に人と関わること」で自分の考えの幅を広げるよう意識しています。クラスでは学級委員長として一人ひとりの意見を聞き、さまざまな意見をどうまとめるか、ここでもつねに「視点」を意識しています。

経験したことのない異文化にふれ、自分の幅を広げられるようにしたいです。

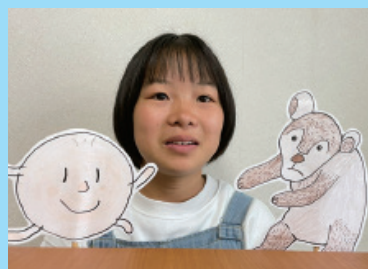


●杉山幸歩（高1／静岡県・長谷川智子パーティィ）



私は2年連続でラボ国際交流が中止になって参加できませんでしたが、そのことで人と交流し、さまざまな価値観にふれたいと思いました。

いままで人と話すだけで緊張していた私は、事前活動やキャンプ、パーティ活動を通して、「笑顔でいる」「みずから行動する」を意識したところ、たくさんの人と仲良くなることができ、海外の人とも交流したいと強く思うようになりました。



2年前より積極的になれたので、今夏はなにごとにも積極的に取り組み、全力で楽しみます。

●早川心乃（中3／新潟県・榎本澄世パーティィ）



事前活動仲間での相互ホームステイ先に着くまで「ちゃんと話せるかな？」と緊張していましたが、着いたら楽しくたくさん話することができてうれしかったです。

国際交流にむけて準備している「素がたり」「Show and Tell」「自己紹介アルバム」を披露したとき、アドバイスや感想をもらうことで改善点を見つけたり、自信をつけたりすることができました。自分で直したいと感じたこともあります。目線をもう少し上げていきたいと思います。

残り2か月で「上書き」し、楽しく国際交流していきたいです。



●久我利樹（中3／千葉県・矢口恵子パーティ）



地区の事前活動グループは全員が仲良く、楽しいです。休憩時間にはみんなでダンスの練習をしたりしています。

ぼくは今年で3回目の事前活動となりますが、中学1,2年のときより英語の語彙が多くなっているのもむしろラッキーだなと思っています。ふだんの生活でも、日本風な物を見ると「ホームステイ先で紹介したいな」と思うことが増え、いまからとても楽しみです。そして、小さなことへの感謝や、笑顔などを日常的に行なっていきたいです。



●廣瀬蒼介（中2／愛知県・廣瀬貴和子パーティ）



ホームステイにむけ、隙間時間を使って準備中。素がたりや、『王さまの耳はロバの耳』の練習は朝ごはん前に、そして日本に興味をもってもらえるように作っている日本クイズは登下校中に考えています。土日の朝ごはんは自分

で作っているの、ホームステイに行ったらホストファミリーにも作ってあげたいです。「勧められたことは、なんでもやるといいよ!」というお姉ちゃんのアドバイス通り、たくさんトライしたいと思います。



●和田将季（中2／大阪府・安倍雅子パーティ）

やっとクリアできた素がたり！自分は英語がほんとうに苦手で覚えるのはたいへん苦労しました。リモートでの素がたりチェックでは緊張して思うように発表できな



かったときは「終わった……」と思いました。その後のホームビジット（ほかの参加者のお宅に行く）ではうまくいったのでうれしかったです。

国際交流を成功させるために、自分はけん玉が得意なほうなのでホームステイ先で披露するためと、全国一になるためにも技に磨きをかけています。大阪といえばタコヤキ……ではなくやっぱりお好み焼きです。ホストに本場のお好み焼きを提供したいと思うので、これから休日にお好み焼きを焼く練習をしたいと思います。

事前活動はたいへんなことが多いけど、楽しい国際交流にできるように出発までがんばっていきたいと思います。



●栗原敦也（高1／愛媛県・標葉直美パーティ）



ぼくは今年で3度目の国際交流挑戦です。1年目の挑戦でホストファミリーが決まっていたにも関わらず中止になってしまいました。そして次の年も行くことはできず、ほんとうに落ちこみました。でも、チューターや先輩がたくさん話をしてくれて高校生で国際交流に参加する利点が見つかりました。ひとつは前より英語力がつき、自立した時期に行けること、もうひとつは、いっしょに事前活動がんばる仲間が増えることです。でもこの時期に国際交流に行くということは、夏休みにラボキャンプでシニアメイトをするチャンスを失ってしまうので残念です。

でも、決まっていたホストファミリーを待たせてしまっているの、今度こそホストファミリーに会いに行きたいです。



●山崎桜良（中3／広島県・上小田郁子パーティ）



私が国際交流事前活動でために
なったと思うことは一泊相互ホーム
ステイとケーススタディ、アルバム
作りです。一泊相互ホームステイで
は同じ日本人なのに異文化交流がで
き、ケーススタディでは自分にはなかった視点をいっ
しょに事前活動をしている友だちから学びました。

また、アルバム作りでは自分のことや日本の行事に
ついて知らなかったことを知れました。

変わったことは、ホームステイ先で披露できるよう
に以前より料理できるようになったことと、ふだんか
ら英語でこれ何ていうんだ
ろう、と調べるようになった
ことです。



事前活動の仲間たちと
テーマ活動や準備活動で仲
良くなれて多くのことを学
べて、ホームステイに行く
のがすごく楽しみになりま
した。

●津野愛奈（中2／福岡県・津野麻紀パーティ）



事前活動では、ホームステイのと
きのトラブル対策や行く前の不安解
消などのために取りくんでいます。
たとえば「ケーススタディ」や「英
語1行日記」はホームステイ中やト
ラブルに備えることができます。しっかり準備する
ことで不安もやわらぎます。とくに楽しかった活動
は、「英語の伝言ゲーム」です。自分の思っているこ
とを英語にして相手の英語を理解するというふたつの
力をつけることができ、
仲間との仲を深められ
るのがいいと思います。
これからは事前活動で
しっかり準備して、ホー
ムステイを楽しみたい
です。



New Labo Intern

コロナ感染拡大で昨年は不在だったラボ・インターン。『ピーター・パン』
作者のジェイムズ・バリや『宝島』作者のロバート・ルイス・スティーブン
ソンも通ったスコットランドのエディンバラ大学で学ぶアネイス・パッテン
さんです。



Anais Patten

22歳／好きなもの：
芸術、文学、映画、
料理など／ラングブ
リッジで来日経験あ
り／配属：4～9月
（首都圏）

Hello! My name is Anais Patten. I am from Windsor in England, known for Windsor Castle, the part-time residence of the Royal family. I am a huge fan of art, literature, cinema, and cooking. I am currently studying Japanese at the University of Edinburgh in Scotland. I have taken classes about a wide variety of aspects of Japan, such as history, literature, and politics. I adore learning new things and experiencing new cultures, which is why I am so excited to have been given the role of LABO intern!

My Family is very international: I have a US passport and often travel to California which is where my mother's side of the family is based. They live near San Francisco.

I also have Russian and German heritage. I adore travelling and learning about new cultures and have

been to many places throughout the world. In 2016, I completed a life-changing summer study abroad in Tokyo through LABO, which introduced me to my love of Japanese culture and language.

The friendliness and warmth of the people I met in Japan really stood out to me, and I am still in contact with my host family who are wonderful.

I am really excited to immerse myself in the Japanese language and culture through living with Japanese host families. I am also really thrilled to share my culture and experiences of both British and American life. I can't wait to travel and make new friends and connections with you!

Look forward to meeting you!

Anais

2022 ラボ国際交流 未来 Project 報告

2022 年のラボ国際交流ホームステイ・プログラムに参加できなかった人たちにむけて行なわれた「未来 Project」。ラボのアメリカ人スタッフも入って、日本にいなから「異文化交流」ができました。

<第1回：3/20> Eman と英語でゲーム／自己紹介に関するゲーム／大学生シニアメイトの自己紹介と国際交流体験／ロジ（小グループ）内での共通点探し

<第2回：4/17> Eman と英語でゲーム／ロジ活動：大学生シニアメイトと自己紹介～ Five about Me

<第3回：5/22> インターンの Anais の Five about Me / Eman と英語でゲーム／ロジ活動：ラボ・ライブラリーから Happy になるワードを探そう！ "If You're Happy" にあわせて発表！／お別れ会と未来への宣言

参加者による「英語で Five About Me」を一部紹介

渡部珠央（中1／福島県・嘉藤朋子パーティ）



誕生日は3月／動物が好き／会津に住んでます／陸上チームのメンバーです／フェレットのナッツとマロンの2匹と、おじいちゃんのハムスターも飼ってます

湯川 桃（中1／静岡県・狩野和美パーティ）

4人家族／バスケットボールが好き／音楽を聴くのが好き／焼き魚は好きだけれど生魚は好きじゃない／好きなマンガは「SPY × FAMILY」



田村泰仁（中2／愛知県・鈴木晶子パーティ）

好きな食べ物は焼き鳥と「男梅」（とくにシート状の）、ゆずしよの焼き鳥缶詰、イタリア料理／好きな教科は社会～ソビエト連邦に興味あり／「文字」が好きで、自分で「タムラ文字」を作ってしまうほど。ハングルとキリル文字が読めます（意味はわからないけど）



<大学生シニアメイトの感想>



前田高志（大学生／福岡県・永尾むつみパーティ）

仲間と「つながる」ことのすばらしさを再確認できました。3回にわたる未来プロジェクトでの交流を通して、参加者が自分のことばで自己表現できたことは自信になったのではないかと思います。また、自分自身も参加者からたくさんの若さあふれるパワーをもらいました。全国にいる仲間の存在を力に変えて、国際交流にむけたこれからの活動も充実したものにしてほしいです。

2022 ラボ国際交流全国引率者合同会議を開催

コロナ禍により2年連続で実施できなかった後の待望のラボ国際交流。夏の本番にむけて準備が進められるなか、ラボ国際交流の引率者が一堂に会する「全国引率者合同会議」が5月14～15日に東京のラボ教育センターにて開催されました。チューター・シャペロン17名とカレッジリーダー11名、ラボ教育センターの事務局引率スタッフ9名および北米団長と北米副団長が参加し、本部長の話から始まりました。

◎会議の主な内容

- ラボ国際交流を担当するJTBスタッフが、コロナ禍での出入国、ホームステイへの対策などについて説明しました。さまざまなケースを想定した質問にもていねいな説明があり、不安をかなり解消できました。コロナ関連のさまざまな保険適用についてはジェイアイ傷害火災保険から説明がありました。
- ラボ国際交流の引率者の役割について北米団長が過去の事例紹介をしながら話しました。参加者がホストファミリーと精一杯のコミュニケーションをとることを応援するために、引率者が交流に関わるさまざまな人としてしっかり交流し、コミュニケーションするだいたさを伝えました。
- コロナ感染予防のマスクに対する考え方をふくめ、



日本と違う環境や人々のあいだでどう参加者たちが「異文化体験」に挑戦できるのか、また引率者がどこまで、どのようにそれをフォローすべきか、といった具体的なケーススタディを小グループに分かれて行ないました。

- チューター・シャペロン、事務局スタッフ、カレッジリーダーが「国際交流再開」にむけて気持ちを引き締めつつ、州別ミーティングをもちました。互いの経験、知識、知恵を交換し、それぞれが「あれをやらなきゃ」「これもやらなきゃ」「こんなふうに見えるかも」という思いをもちながら解散しました。



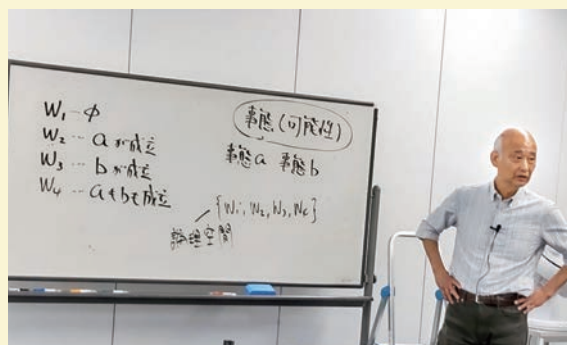
東京言語研究所 春の講座レポート

この春に行なわれた東京言語研究所の講義・講座の一部をご紹介します。ご興味のある方は今後行なわれる講義・講座にご参加ください。当研究所ウェブサイトからお申込みできます。

第2回 集中講義

「ウィトゲンシュタインの言語観」3/12-13

野矢茂樹（立正大学教授／言語哲学）



講師の野矢茂樹先生は分析哲学を研究されています。分析哲学とは、人間の言語の分析を中心とする学問分野ですが、言語の文法や発音に関する側面ではなく、言語の意味に関する側面を分析し研究します。

この分野には、20世紀前半のイギリスで活躍し、『論理哲学論考』（岩波文庫／野矢茂樹訳）そして『哲学探究』（講談社／鬼界彰夫）という著作を残したオーストリア出身のウィトゲンシュタイン（1889-1951）という哲学者がいます。彼は、ある単語の意味とはなにかを指し示すものなのか、あるいは心の中に想起する観念のようなものなのか、はたまたなにか別

のものなのか、など言語の意味に関する根本的な問題について深い洞察をしたのですが、年齢とともに考えが変化していたり、断片的な考察に留まっているかのような文体が原因で、先述の著作は難解だとされています。

2日間の講義では、野矢先生ご自身がウィトゲンシュタインの著作を長年にわたり読み解き、『ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』を読む』（哲学書房／ちくま学芸文庫）や、『ウィトゲンシュタイン『哲学探究』という戦い』（岩波書店）などの作品を書かれたご経験から、この哲学者の生い立ち、言語観、問題意識、そして意味を理解するための「言語ゲーム」とか「家族的類似性」といったキーワードについて、わかりやすく解説していただきました。（文責：編集部）



野矢茂樹著
『ウィトゲンシュタイン
『哲学探究』という戦い』

第3回 公開講座

「ことばと、音楽性と、創造性と」2/19

池上高志（東京大学教授／人工生命、複雑系の科学）



池上先生は人工生命（Artificial Life—通称 ALife）の研究者です。人工生命とは、自律性、進化、意識など、あらゆる生命現象の倫理を探究し、コンピューター技術や生物化学によって人工的に「生命」のシステムをつくり上げるものです。池上先生は機械には2種類あるといいます。ひとつは人間の行動と同じことを自動的にこなす機械、もうひとつは自分ではなにかをするかを決める「自らの意思で動く」機械です。池上先生は自らの意思で動く機械を「人工生命」と考えています。そして、「オルタ3」という名前のアンドロイドを使い、自らの意思で動くために必要な情動や記憶をもたせるためのさまざまな取り組みを日本のみならず海外の研究者とも共同して行なっています。（文責：編集部）



主体的であるということ

岡田圭祐

会社経営

ぼくが国際交流に参加したのは、中2の1か月間のホームステイと高3の1年間の留学です。1か月ホームステイは小学生のときから参加したかったのですが、留学に興味をもったきっかけは4歳上の姉が留学のプログラムに参加し、帰国した際に大きく成長したと感じ、自分も経験してみたいと思ったからです。中2の1か月間は、ことばがうまく通じなくてもただただ楽しかった思い出しかありません。

しかし留学した際（アメリカのメイン州）には思っていた以上に生活になじむのに苦労をしました。ホストファミリーはみんなやさしくて恵まれた環境でしたが、同学年のホストブラザーとははじめのころ馬が合いませんでした。また、学校の授業の内容を理解するのもむずかしく、まったくついていけませんでした。内容がわからないなかでは授業中の

ディスカッションに参加できず、履修教科の難易度を下げたうえ、テストで最低評価をとる科目もありました。日本ではあじわったことがない悔しい思いをしました。意固地になっていたぼくは、休みの日にホストに外出を誘われても断って部屋で勉強することが多かったように思います。ホストマザーもそんなぼくを心配してくれていました。

ですが3か月ほどがむしゃらに過ごすうちに友人ができました。彼らが授業でフォローしてくれたり、休日に連れだしてくれたりするなかで少しずつ余裕も生まれてきました。ほんとうに彼らには感謝しています。半年経つうちに、ホストブラザーもふくめて学校中のみんなと仲良く過ごせるようになっていました。

ことばや文化の違いに直面するなかで、勝手に自分がまわりの人たちにレッテルを貼って、「コミュニケー

ションを取る機会を避けて」いたのだと、そのときに気づきました。まわりが変わったのではなく、自分の態度が変わることがきっかけで関係が良好になっていったのです。

その後、ふたたび海外で生活や仕事をする機会を得た際も、現在、両親の後を継いで会社経営に携わるなかでも、多種多様な人といっしょに働いてきました。人それぞれの個性を受けとめて、みずから主体的にコミュニケーションを取っていくことが関係性の質を高めることへとつながるのではないかと実感しています。国際交流や日々のラボ・パーティでの活動など、ラボで得たさまざまな友人たちや社会経験がぼくの礎を築いてくれたと確信しています。おかげでいすけ＝株式会社イルローザ（菓子製造・販売、カフェ経営）（徳島県・水谷弘子パーティ、東京都・山崎照代パーティ OB）

Information ラボ国際交流センターの理事会および評議員会の報告

●本年2月に当財団は一般財団法人へと移行しました。

◎一般財団法人への移行に伴う第48期みなし事業年度（2021年4月～2022年2月6日）の収支決算と、第50期（2022年4月～2023年3月）の事業計画案と収支予算案を主たる議題とする理事会が3月16日（水）に13名の理事（オンラインでの出席、議決権行使書での議決を含む）と1名の監事の出席のもとに、続いて評議員会が3月31日に11名（オンラインでの出席、議決権行使書での議決を含む）の評議員と1名の監事出席のもとに開催されました。理事会と評議員会では、「みなし事業年度の決算」「第50期事業計画案」「第50期収支予算案」等が審議され、それぞれ満場一致で承認されました。

◎第49期（2021年4月～2022年3月）事業報告、収支決算を主たる議題とする理事会が5月16日に理事12名（オンラインでの出席、議決権行使書での議決を含む）の出席のもとに、続いて評議員会が5月31日に評議員12名（オンラインでの出席、議決権行使書での議決を含む）の出席のもとに開催されました。理事会では「第49期事業報告案」「第49期収支決算案」「会員の加入状況報告」「評議員会の招集」が提案され、それぞれ満場一致で承認されました。評議員会では、「第49期事業報告案」「第49期収支決算案」「人事（理事、評議員の選任と辞任）」が提案され、それぞれ満場一致で承認されました。